

第七回 近世京都学公開講座

飛来一閑張泉王寺家～精神と技術 ～お話とワークショップ～

公益財団法人有斐斎弘道館では、毎年、近世京都学会と共催で「近世京都学公開講座」を開催しております。

本年は、学会でも徳川吉宗公の天体望遠鏡に使われていたことで大いに話題になりました「一閑張（いっかんばり）」について、一閑張泉王子家十四代ご当主の尾上瑞宝氏お越しいただき、お話をお伺いするとともに、参加のみなさまと一緒に、一閑張の小作品を作っていただこうと考えております。ぜひこの機会に、近世京都のゆたかな知と技の世界を、一緒に探訪しましょう。どうぞお気軽にご参加ください。

日時：2017年11月19日 15時～16時半（予定）

参加費：2,500円（材料費込／近世京都学会会員は500円）

会場：有斐斎 弘道館

（京都市上京区上長者町通新町東入元土御門町524-1）

講師： 尾上瑞宝 氏
（泉王子家 第14代現当主）

伝統工芸 一閑張
飛来一閑 泉王子家 家元

一閑張の始祖飛来一閑は、古代中国に伝わる乾漆工芸の技術の持ち主で、江戸時代初期の寛永六年（1629）、明国より渡来しました。

日本の良質な和紙を主原料とした独自の技法を考案したことが一閑張の始まりです。

飛来一閑は、霊元天皇（一六五四～一七三二）より、名匠の証として泉王子という名と菊水紋を賜りました。

以後、江戸時代初期から現在まで、泉王子を代々襲名し、十五代まで続いております。

参加申込み先：

《一般》有斐斎弘道館

電話：075-441-6662

メール：kouza@kodo-kan.com

《会員》近世京都学会第二事務局

電話：075-202-8105

メール：gakkai@kinsei-kyoto.com

主催：公益財団法人有斐斎弘道館

共催：近世京都学会

有斐斎弘道館について

有斐斎弘道館は、2009年に皆川淇園の学問所址の数寄屋建築と庭園が取り壊されそうになったところを、研究者や企業人らの有志により、一時的な保存を成し遂げたものです。

皆川淇園が設立した学問所「弘道館」にならい、現代に必要な、文化芸術による〈知〉を再生するための、新たな学問・文化サロンとして、茶事や講座をはじめとする、さまざまな事業を行っております。